

人と魚と海のネットワーク  
香川県漁連ホームページ  
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/  
E-mail:gyoren@kagawa-gyoren.or.jp



**JF** 高松市北浜町 8 - 25  
TEL 087-825-0350  
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

## 第33回高松地区乾のり品評会審査会開催

高松地区海苔養殖研究会（会長 青木繁）主催の第33回高松地区乾のり品評会が、去る1月18日に高松市瀬戸内漁業センターで開催された。

当日は、審査員に県漁連の海苔検査員を招き、地区会員全員から出品された乾のり66点(6,600枚)を厳正に審査し、上位9点の入賞を決定した。

出品された乾のりは、加工して福祉施設に寄贈するほか、3月4、5日にサンポート高松で開催される「たかまつ食と農のフェスタ」でPR販売する予定である。

第33回高松地区乾のり品評会受賞目録

賞名	受賞者	ブロック名
市長賞(団体賞)	直島漁業協同組合	
市長賞(個人賞)	松本 孝章	下笠居
香川県農政水産部長賞	石田 政之	直島
高松市議会議長賞	津島 和博	香西
香川県漁業協同組合連合会長賞	西口 正弘	直島
香川県海苔養殖研究会会長賞	谷沢 定広	下笠居
(社)香川県水産振興協会会長賞	竹林 亨	直島
香川県信用漁業協同組合連合会長賞	石田 貴之	直島
高松市漁業協同組合連絡協議会長賞	高橋 健二	直島
高松地区海苔養殖研究会会長賞	今井 博	直島
ブ ロ ッ ク 賞	細谷 正輝	高松市瀬戸内
	大江 和美	屋島・女木・男木

## 税務説明会開催

1月27日、漁連会館において漁協関係者ら80名が参集し税務説明会が開催された。

この説明会は、所得申告、法人税申告、消費税申告を控えたこの時期に毎年開催されており、今回については申告関係の他に漁協の資産査定、定款変更についての説明が行われた。

本会服部会長の挨拶のあと指導部担当者から「個人業者の申告について」、「漁協の申告書等作成上の留意点」について昨年との相違点を中心に説明があった。続いて、組織強化推進室より漁協経営の健全性の観点から「漁協の資産自己査定について」漁協での必要性及び取組方針等の説明があった。また、県水産課より市町合併に伴う漁協の「定款変更及び登記について」の留意事項について説明があった。

午後からは、本会富永税務顧問より「法人税税務調査について」具体的な事例をあげた説明があった。その中で、時代の流れとして個人の税務申告は各自が行う方向で進めていく必要があるとの見解が示された。

## 平成16年漁業生産額(全国・香川)

農水省は12月2日、平成16年の漁業生産額を発表した。それによると平成16年の生産額は1兆6049億円で前年に比べ0.9%増加し、わずかながら7年ぶりに前年を上回った。

海面漁業の生産額は1兆659億円(前年比2.8%増)で、このうち遠洋漁業は1,691億円(前年比1.5%増)、沖合漁業は3,960億円(前年比7.2%増)、沿岸漁業は5,004億円(前年比0.1%減)であった。

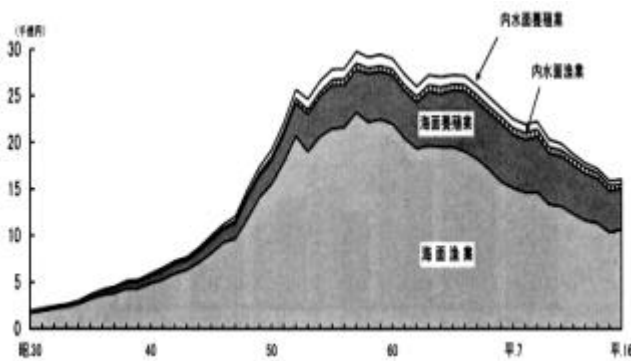
海面養殖業は4,356億円(前年比2.7%減)で、ブリ類は1,093億円で収穫量の減少に加え価格も低下したことから10.8%減となり、マダイは507億円で収穫量の減少により1.7%減であった。ノリ類は979億円で8.8%増となり、カキ類は368億円で2.7%減であった。

一方、県内漁業生産額は中国四国農政局高松統計・情報センターのまとめによると265億900万円(前年比2%減)と3年連続ダウンし、過去2

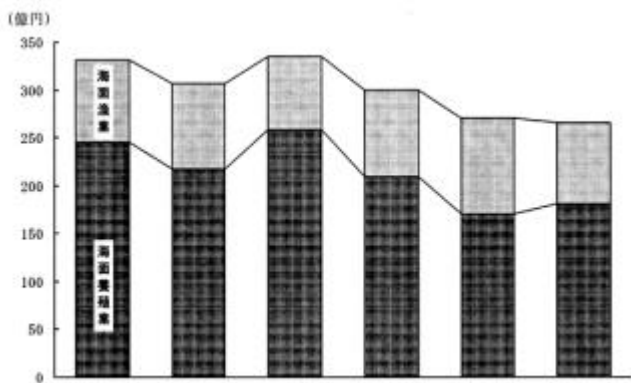
5 年で最低だった前年をさらに下回った。

海面漁業は 8 3 億 6 5 0 0 万円で、前年に比べ 1 6 億 5 0 0 0 万円 (前年比 1 6 %) 減少した。サワラ類、ヒラメ、カニ類などの生産額は上昇したが、イカナゴやカタクチイワシの漁獲量の減少が響いた。

海面養殖業は漁獲量が前年を上回り、1 8 1 億 4 4 0 0 万円 (前年比 7 % 増) であり、主力のブリ類は全国的に漁獲量が多く安値で推移したため 7 7 億 4 9 0 0 万円 (前年比 4 % 減) また前年落ち込んだノリ類は 7 4 億 5 4 0 0 万円 (前年比 2 6 % 増) であった。マダイは前年比 2 1 % 増、カキ類は前年比 1 9 % 増であった



全国漁業生産額の推移



香川県海面漁業・養殖業生産額の推移

## 海難事故

高松海上保安部がまとめた平成 1 7 年の海難事故発生状況によると、船舶海難の隻数は 9 0 隻 (前年 6 9 隻) で平成 1 6 年に比べ 2 1 隻増加した。

船の種類別では、漁船が 3 5 隻 (前年 2 0 隻) と 2 年連続トップで、プレジャーボート 2 5 隻 (前年 1 8 隻) 貨物船 2 0 隻 (前年 1 7 隻) の順となり、漁船の海難は全体の 4 0 % を占めている。

海難の種類別では、衝突 3 1 隻 (前年 3 2 隻) 乗揚げ 1 7 隻 (前年 1 3 隻) 火災 1 6 隻 (前年 1 隻) 機関故障 1 1 隻 (前年 9 隻) の順となっている。

海難の特徴として、火災が 5 件 1 6 隻発生しそのうち 3 件 1 4 隻が不審火又は放火による。また、平成 1 6 年には台風が多数来襲したことにより、漁船やプレジャーボートの運航が少なかったため事故件数が相対的に減少したと思われるが、平成 1 7 年は晴天が続き、これらの船の運航回数が増加したことが海難増加の要因の 1 つ。乗揚げの大多数は、貨物船、タンカー、プレジャーボートであり、貨物船及びタンカーについては居眠りが要因。プレジャーボートに関しては、水域不案内が原因になっている海難が目立つ。

### 船舶海難の種類別状況

	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年
貨物船	20	17	16	22
タンカー	5	3	2	4
旅客船	2	1	1	2
プレジャーボート	25	18	45	54
漁船	35	20	17	29
遊漁船	0	0	0	1
その他	3	10	7	3
合計	90	69	88	115

### 海難の種類別状況

	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年
衝突	31	32	40	36
乗揚げ	17	13	12	18
機関故障	11	9	13	16
推進器障害	5	3	5	9
浸水	2	2	1	4
火災	16	1	4	4
舵障害	0	0	1	2
転覆	0	1	1	1
爆発	0	3	0	1
運行障害	2	2	9	15
安全障害	4	0	0	0
その他	2	3	2	9
合計	90	69	88	115

### 主な行事予定 (2/1 ~ 2/28)

2月 7日(火) 北方領土返還キャンペーン

10日(金) 第6回のり入札

24日(金) 第7回のり入札